

平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（小学国語）

学校名 逗子市立久木小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>○平均正答率は全国とほぼ同じ（+5%以内）でした。</p> <p>○領域別、観点別、問題形式別で正答率をみても、全国平均とほぼ同じ（+5%以内）で、大きな課題は見られません。</p> <p>●正答数が全国の中央値に達しない児童が4割強います。</p> <p>●強いて言えば、問題形式が選択式である場合の正答率の高さからみると、記述式である場合の正答率は低めと言えます。</p>
<p>話すこと 聞くこと</p>	<p>○「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする」ことが求められている設問の正答率が、5%以上全国の正答率を上回っています。</p>
<p>書くこと</p>	<p>○全体の平均正答率は全国とほぼ同じ（+5%程度）でした。</p>
<p>読むこと</p>	<p>○●「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にする」ことが求められている設問で、問題形式が選択式の場合は5%以上全国の正答率を上回っていますが、記述式の場合の正答率はわずかに全国平均を下回ります。</p>
<p>伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項</p>	<p>○「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる」ことが求められている設問の正答率が、10%以上全国の正答率を上回っています。</p> <p>●「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」ことが求められている設問の一部で、正答率が全国平均を5%以上下回っていたり、無回答率が全国平均よりやや高め（5%以内）だったりします。学習した漢字を自分のものとして使いこなすという点で若干の課題があるといえます。</p>
<p>児童質問紙 国語に関する質問 問 37～45</p>	<p>○国語に関する質問に対する回答は概ね良好な傾向が見られ、多くの児童が望ましい国語の学習スタイルを確立させ、内容をよく理解していると言えます。</p>

平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（小学算数）

学校名 逗子市立久木小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>○平均正答率は全国とほぼ同じ（+5%以内）でした。</p> <p>○領域別では「数と計算」「量と測定」、観点別では「数学的な考え方」、問題形式では「記述式」の正答率が、全国平均を5%以上上回っています。</p> <p>●算数の問題としてはさほど難易度が高いわけではないのに、問題文が長く、順序だてて考えていくことが必要となる問題での無回答率が高かったことに課題を感じます。</p>
<p>数と計算</p>	<p>○数と計算に関する設問は7問ありましたが、そのうち6問は全国平均正答率を上回っています。</p> <p>●「加法と乗法の混合した整数と少数の計算」の正答率が全国平均を下回っています。計算のきまりを再確認させる必要を感じます。</p>
<p>量と測定</p>	<p>○「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する」ことが求められている設問の正答率が全国平均を10%以上上回っています。</p>
<p>図形</p>	<p>●「長方形を直線で切ってできた図形の中から台形を選ぶ」設問の正答率が、わずかに全国平均を下回っています。</p>
<p>数量関係</p>	<p>○数量関係に関する設問は7問ありましたが、そのうち6問は全国平均正答率を上回っています。</p>
<p>児童質問紙 算数に関する質問 問 46～56</p>	<p>○算数に関する質問に対する回答は概ね良好な傾向が見られ、多くの児童が望ましい算数の学習スタイルを確立させ、内容をよく理解していると言えます。</p>

平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（児童質問紙）

学校名 逗子市立久木小学校

特徴的なことや課題と考えられること等

- 全体的な回答傾向から、本校の児童が良好な学校生活・家庭生活をおくっていることと、この地域の家庭の教育力の高さが伺われます。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」と問われて、「当てはまる」と回答した割合が昨年度よりも大幅に増え、全国平均を上回りました。
- 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」という問いに対して、肯定的な回答がやや低めでした。これまで以上に児童が納得いくまで粘り強く指導を続けていく必要性を感じます。
- 学校図書室・地域の図書館の利用率がやや低めです。図書館を活用することの意義を伝えていく必要性を感じます。

平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

学校名 逗子市立久木小学校

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

1. 一人ひとりの児童の学力向上につながるよう、指導の工夫・改善に継続して取り組みます。
一人ひとりの調査結果からその「個」の学力・学習状況を把握し、それぞれの個に応じた指導のあり方を考えていきます。学習の過程では、自分の言葉で自分の考えを表現することを大切にします。
2. 探究的な学習の実現を目指して、校内研究に取り組みます。
生活科・総合的な学習の時間の授業研究を通して探究的な学習のあり方を探り、「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげます。
3. こころの教育に継続して取り組み、いじめを許さない学校づくりにつなげます。
各教科、総合的な学習の時間、道徳教育等、あらゆる教育活動を通して、他者への思いやりや自分を大切にすることを育む指導を充実させます。